HUAZHONG UNIVERSITY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY PRESS

# 日语阅读技能训练

RIYU YUEDU JINENG XUNLIAN

陈俊森　编著

华中理工大学出版社

H369.4
C44

442769

# 日语阅读技能训练

陈俊森

00442769

H369.4
C44

华中理工大学出版社

(鄂)新登字第10号

图书在版编目(CIP)数据

日语阅读技能训练/陈俊森
武汉:华中理工大学出版社,1997年4月
ISBN 7-5609-1499-3
Ⅰ.日…
Ⅱ.陈…
Ⅲ.日语-阅读教学-教学参考资料
Ⅳ.H369.4

日语阅读技能训练
陈俊森
责任编辑　梅欣君　江一峰
*
华中理工大学出版社出版发行
(武昌喻家山　邮编:430074)
新华书店湖北发行所经销
华中理工大学出版社印刷厂印刷
*
开本:787×1092　1/32　印张:12.5　字数:280 000
1997年4月第1版　1997年4月第1次印刷
印数:1—5 000
ISBN 7-5609-1499-3/H·193
定价:11.00元
(本书若有印装质量问题,请向出版社发行部调换)

D254/34

## 内容提要

本书为中级日语读物，其目的在于培养日语的各项阅读技能，提高日语交际能力。

本书分为上下两篇，上篇为“阅读技能指导”，理论与实践相结合；下篇为“综合阅读训练”，突出阅读实践。

本书可供学习过初级日语的读者使用，亦可以作为大学日语的阅读专项训练教材。

# 前　言

本书属于中级日语读物，参考《大学日语教学大纲》中的《语言技能表》编写而成。其目的重在培养日语的各项阅读技能，提高日语的交际能力。

本书由“阅读技能指导”和“综合阅读训练”上、下两篇构成。上篇安排了9节内容，各节构成如下：阅读技能指导、练习、生词、注释，其中练习主要针对该节的技能编写。下篇共计50课，每课由短文、练习、生词、注释4个部分构成，其中练习大部分围绕上篇中讲解过的9项阅读技能编写。书后安排了3个附录。

本书有以下几个特点：

1. 阅读技能由分项指导到综合训练。上篇分项讲解、指导，下篇在实践中综合运用，理论与实践相结合，重点突出实践。

2. 文章短小、精悍，生词、注释详略得当，便于自学。即使没有教师指导，通过自学本书，也可以达到提高日语阅读技能的目的。

3. 选文体裁、题材多样，内容上以“日本人、日本问题”为中心。

程度较高的读者可以按“读短文→做练习→再读短文→查阅生词或注释→再做练习”的步骤学习；程度稍低的读者可以按“读短文→查阅生词或注释→做练习”的步骤学习。有效地使用本书，可以达到泛读与精读相结合的效果。为了训练“推测文章的发展和结果”这项技能，有几个单元的练习是插入在课文当中的，请阅读时注意。



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

本书选文主要出处列于书末，以志谢忱。在此一并向未能一一列出引文的作者以及出版单位表示感谢。

由于作者水平有限，疏漏、错误之处一定不少，敬请读者批评、指正。

作者

1996 年 5 月

# 目　录

**上篇　阅读技能指导**……（1）
一　理解指示词所指代的内容……（1）
二　理解句子中隐含或省略的句子成分 ……（14）
三　找出主要论点或重要信息 ……（24）
四　寻找隐含的信息或观点 ……（36）
五　归纳中心思想 ……（44）
六　猜测生词词义 ……（54）
七　寻找词链中的共同对象 ……（69）
八　推测文章的发展和结果 ……（79）
九　通过关键词和主题句快速获取信息 ……（85）
**下篇　综合阅读训练** ……（94）
一　文化、科学と情報……（94）
二　中国名峰三選……（100）
三　中国の人になりきって観光
　　できる北京レンタサイクル……（103）
四　一休さん……（106）
五　桃太郎……（110）
六　亀の恩返し……（115）
七　招待状……（120）
八　料理学校で……（123）
九　ゴミの捨て方……（127）
十　エレベーターの利用のしかた……（130）

十一　電話のかけ方と受けかた……（133）
十二　インフレーションの原因 ……（138）
十三　都市の過密化……（141）
十四　現代の人体透視術……（145）
十五　LSIの製造 ……（149）
十六　異質な文化に対する態度と理解……（153）
十七　ゆっくり ……（157）
十八　ラッシュアワーと言語生活 ……（161）
十九　余計なアナウンス……（166）
二十　新オフィス考 ……（172）
二十一　日本の教育……（177）
二十二　日本の女性……（181）
二十三　日本人の労働倫理……（187）
二十四　日本的労働慣習……（191）
二十五　日本の原動力――経済的価値の変遷―（上）
……（196）
二十六　日本の原動力――経済的価値の変遷―（下）
……（201）
二十七　日本の情報社会……（206）
二十八　情報化社会の到来……（211）
二十九　情報化社会と「私」……（215）
三十　私のパソコン体験……（220）
三十一　「情報化」社会で生きる……（224）
三十二　なぜ日本の企業が「良いものを安く」
が可能か……（230）
三十三　新アイデアとて、結局は既知の
組み合わせ……（235）

三十四　ハイテクも大量生産時代なら
日本がトップ……（240）
三十五　日米の技術力の現状と将来
予測……（244）
三十六　価値ある情報は東京にこそ集
まる……（249）
三十七　ニュービジネスが解消する人
口集中の弊害……（255）
三十八　環境にやさしい技術を開発し
た自動車産業……（261）
三十九　川の水は森林がつくっている……（268）
四十　森林と田畑の現状……（272）
四十一　日本の税制五つの大欠陥……（276）
四十二　完全週休二日時代の幕開け……（281）
四十三　男性も考えたい「婦人週間」……（287）
四十四　小さな宝……（293）
四十五　野原の花……（297）
四十六　旅を楽しみながら花嫁修業
をしよう……（302）
四十七　暖炉の炎を眺めるぜいたく……（307）
四十八　若者の方が案外「まっとう」……（313）
四十九　聖書の中の女性たち……（319）
五十　表現の悦び……（323）
**附录一　参考答案**……（328）
**附录二　注释中语法　惯用型等索引**……（336）
**附录三　总词汇表**……（341）
**参考文献**……（387）

# 上篇　阅读技能指导

## 一　理解指示词所指代的内容

指示词是用来直接指代事物、性质或状态的词。它们有：

代名词　これ、それ、あれ、どれ
　　ここ、そこ、あそこ、どこ
　　こちら、そちら、あちら、どちら
　　こっち、そっち、あっち、どっち

连体词　この、その、あの、どの
　　こんな、そんな、あんな、どんな

副　词　こう、そう、ああ、どう

以上这些词又称作“こそあど词”，由这些指示词派生出来的一些短语，从整体上也可以看作是一个指示词。例如，そういう、こうした、このような、どのような、このように、あのように、こういうふうに、そんなふうに、こういった等等便是这类派生指示词。此外，像“以上”、“次”、“例の”等词也具有指示词的功能。“こそあど词”是指示词的中心，其中的代名词是我们要理解的重点。

1. 指示词的指代关系。

(1) 指代现场事物。通常用在会话场面。

例：

a：<u>この</u>靴下ナイロン？ 木綿？

b:ナイロンです。

a:それは?

b:これもナイロンです。

a:おいくら?

b:600円です。

a:それください。

这就是指示词的所谓“近称、中称、远称、不定称”关系。

(2) 指代前后文中出现的事物。

例:

北アメリカの中西部は、もともとは豊かな大草原であった。そこは自然の大牧場だった。

“そこ”指代前面出现的“北アメリカの中西部”。用来指代前后文中的事物时,指示词主要用“こ、そ”类。

(3) 指代前后文以外的事物。

例:

駅を出ると、広いアスファルト道路の両側に、材木がたくさん積んであった。みんな同じ長さに切った材木だ。ずっと向こうには、太い煙突があって、黒い煙がいっぱい出ていた。あそこが製紙工場だと教えられた。

どこかへ旅行がしてみたくなる。しかし別にどこというきまったあてがない。そういう時に旅行案内記の類いを開けて見ると、あるいは海浜、あるいは山間の湖水、あるいは温泉といったように、行くべき所がさまざまありすぎるほどある。

前例中的“あそこ”所指代的事物在话题外;后例中的“どこ”是不确定的指代,当然在前后文里面是找不出它的指代内容



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

的。

2. 指示词的指代对象

(1) 指特定词语。

例：

海の中の植物といえば、すぐ思いつくのは、ノリやコンブなどであるが、これらのものは、海の中でも陸地に近いごく浅い所にしか生えていない。

“これら”指代前面的“ノリ，コンブ”。

(2) 指特定的句子。

例：

言葉には、わたしたちが考えたことや感じたことを表わし、人に伝える働きがある。それも言葉の重要な働きである。

这里的“それ”指代前面整个句子的内容。

(3) 指特定的句群或段落。

例：

お宅の風鈴がうるさくて夜眠れません。あたしたちはもう長い間寝不足なのです。夏の間はがまんしていました。でも、もうそろそろとりこんでくださったらいかがでしょう。

ある日、こんなはがきが、ぼくの部屋に届いたのでした。

“こんな”指的是前面整个段落。

(4) 指代前后文中的抽象内容，即非特定词、句或段落。

例：

車を運転する人が、どんな道でも、自分勝手に走っていいことになっていたら、どうなるだろうか。たちまち正面衝突が起こり、まず道は道としての用をなさなくなるであろう。そうならないために規則がある。

上文中的“そう”确是指代的前文内容，但并非某词某句，而是藏于其中的意思“交通事故を起こす”。

(5) 泛指或指代的内容含混不清。

例：

日本の新年行事の一つに神社への「初詣」がある。科学技術文明がここまで進歩し、人人は宗教から遠ざかっているようにも見えるのだが、初詣の習慣はおとろえてはいない。

この社会において～

前例里面的“ここ”，后例里面的“この”，都没有具体的指代内容，指代关系含混不清，但是这样并不妨碍我们对文章的理解。

“この、その、あの、どの”分内容指示和限定指示。内容指示就是指代某一具体内容。

例：

人間は、昔からいろいろな道具を作り、使ってきた。その中でも、人間の生活に大きな影響を与えたのは車輪である。

这个“その”指的具体内容便是“いろいろな道具”。

限定指示没有什么实质内容，其作用有点像英语的定冠词“the”。下例中的“この”便是这种用法。

古代日本の工業はもちろん手工業にはじまる。この手工業的生産のリーダーとなった人々には、大陸から渡来した者が多かった。

要理解指示词所指代的内容，首先应该注意把握前后文内容上的联系以及逻辑关系，若发现了某处像是指代内容时，可将

它代入指示词所在的位置，验证一下意思是否正确、通顺。代入不一定是直接从句中抽出词语，若是代名词，视情况可以加进“～こと”，“～ということ”。若是连体词，如“この、そんな”等，则应该设法使抽出的词语和下面的内容正确连接，必要时可加进“～の”、“～のような”等等。

## 练　习

次の文の____を引いた指示語はそれぞれ何を指していますか。a～cから正しいものを選びなさい。

1. 草花遊びは、自然を友とする子供たちが、長い年月をかけて、一つ一つくふうをこらし、愛情をこめて育てあげた野の遊びです。それは、なかまからなかまへと伝えられ、また、親から子へ、子から孫へと受け継がれてきました。

   a. 草花遊び　b. 野の遊び　c. 自然

2. にぎやかな町の通りを歩いているとき、わたしたちは、ふと店先に足を止めることがある。そこ(1)には、赤、青、黄、緑、さまざまないろどりの洋服、かばん、帽子、ハンカチなどが、きれいに並んでいる。その美しいいろどりを見ていると、楽しい気持ちになる。これら(2)の色は、たいていは、人間が作って着色したものである。

   (1) a. にぎやかな町　b. 町の通り　c. 店先

   (2) a. さまざまないろどりの洋服、かばん、帽子、ハンカチなど

   b. 店先　c. 赤、青、黄、緑

3. 布地だけでなく、衣服の形についてもくふうしています。夏には、えりや袖口の開いた衣服を着るでしょう。これも体

の周りの暑くなった空気を外に出すのに役立っています。

a. 布地

b. 衣服の形についてくふうしていること

c. えりや袖口の開いた衣服

4. 小説とは何か、戯曲とは何か、といったことを一言で説明するのは難しい。しかし、ごく大ざっぱに言えば、それは私たちが目で見、手で触れているこの現実世界とは別の世界を、言葉の力によって創り出したもの、と言える。

a. 小説　b. 戯曲　c. 小説と戯曲

5. 環境は、ふつう、自然を人間の生活の基盤として考えた場合に、これ(1)を自然環境と呼ぶ。これ(2)に対して、人間の生活の社会的背景をなす諸条件を社会環境と呼んでいる。

(1) a. 環境　b. 人間の生活の基盤

c. 自然を人間の生活の基盤とした環境

(2) a. 自然　b. 自然環境　c. 人間の生活の基盤

6. 日本の新聞は、紙面構成の視覚性に、とりわけ注意を払っている。それは、新聞の読者がひと目で紙面全体を見渡し、とくに数語の見出しによって、かなりの情報をきわめて短時間に目に収めるためである。

a. 日本の新聞　b. 紙面構成の視覚性

c. 紙面構成の視覚性にとりわけ注意を払っていること

7. 仏教が伝えられたころ、日本の支配者は中国の政治制度を学んで中央集権的な国家を作ろうとしていたが、中国の政治制度とそれを支える思想・文化を受け容れるとともに、もう一つ別のルートとして仏教を受け容れ寺院を外来文化センターとして建てた。

a. 中央集権的国家　b. 中国の政治制度　c. 仏教

8.　同じ山をかくにしても、人が違えば同じ絵にはならない。一人一人の個性差は山の絵だけでなく、ほかのものをかくときにも認められる。それが完成された画家の場合なら、画風と呼ばれるものである。画風は一朝一夕にできるものではないが、いったん出来上がってしまうと、変えようとしても、なかなか変えられない。

a. 山　　b. 絵　　c. 一人一人の個性差

9.　猛獣が火をおそれるというのは、俗説である。G・B・シャラー博士は、ライオンが前足がこげるほど近くにせまってきた野火の中で、平気でえものをむさぼり食っていた例を報告しながら、ライオンは火をおそれないと述べている。確かに、火から身を避けねばならないが、猛獣や大型動物にとっては、それはたやすくできる。

a. 火から身を避けること

b. 火をおそれないこと

c. 野火の中で平気でえものを食うこと

10.　日本の住いは現在でも、地表面から30センチないし50センチくらい高いところに、板張りの床を作る方式は広く行なわれている。また、この床の上に畳を置き、そこ(1)に寝具を敷いて就寝するし、すわって食事や客の接待も行なうのがふつうで、最近かなり洋風の椅子や寝台などの家具が用いられるようになっても、それ(2)が家の中の全部に及ぶことはほとんどない。

(1) a. 床の上　　b. 畳　c. 板張りの床

(2) a. 洋風の家具　b. 畳　c. 寝台

11.　今の子供と違って、ぼくらの少年時代は、盛んに親から

用事を言いつけられたものだ。ぼく自身は一人っ子で、わがままに育てられたから、それほどでもなかったが、お使いを言いつかって出掛けることが、子供にとっては一種のレクリエーションを兼ている場合だってあった。——道草を食う、この言葉は、元来そういう楽しみを言い表したものなのである。

a. 道草を食う楽しみ

b. 我がままに育てられた楽しみ

c. お使いを言い使って出掛ける楽しみ

12. 私の青年時代の作に「麒麟」という小篇がありますがあれ(1)は実は内容よりも「麒麟」という標題の文字の方が最初に頭にありました。そうしてその文字から空想が生じ、ああいう物語が発展したのでありました。ですから一つの単語の力というものは、はなはだ偉大でありまして、古の人が言葉に魂があると考え、言霊と名づけましたのもまことに無理はありません。これ(2)を現代語で申しますなら言葉の魅力ということでありまして、言葉は一つ一つがそれ(3)自身生き物であり、人間が言葉を使うと同時に言葉も人間を使うことがあるのであります。

(1) a. 「麒麟」　b. 作　c. 青年時代

(2) a. 魅力　b. 言葉　c. 言霊

(3) a. 言葉　b. 言霊　c. 現代語

## 生　词

| | |
|---|---|
| 靴下(くつした)　袜子 | 木綿(もめん)　棉,棉织品 |
| ナイロン　尼龙 | アスファルト　柏油,沥青 |



此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com